

ビギナーのための産婦人科画像診断 —万事解決 Q&A アプローチ—

序 説

大 彌 歩 *

『画像診断』編集部より、2026年10月号の特集企画の担当依頼をいただいたのは、2025年6月のことであった。業績や知名度が十分とはいえない私が選ばれたことに驚きを覚えたが、大変光栄な機会であり、自分にしかできない役割があるのではないかと考え、謹んでお引き受けした。

私は産婦人科領域の画像診断を専門としている。放射線科医となって2年目より本領域に関心を持ち、年1回のJSAWI (Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging)に参加するなど学習を継続してきた。しかし長らく、教科書や専門書で名を連ねる先生方と直接交流する機会は限られており、常に初学者に近い視点で学び続けてきたと感じている。

そのような自身の立場を踏まえ、初学者とエキスパートをつなぐ橋渡しとなる特集を目指した。そこで、本特集のテーマを「ビギナーのための産婦人科画像診断」とした。他領域の「ビギナーのための」シリーズの体裁を継承しつつ、編集部を通じて一部の読者からQuestionを公募した。読者が今まさに知りたい疑問に対し、その分野に精通したエキスパートが答える構成とすることで、実臨床に即した理解の一助となることを期待している。また、読者が「この先生に教えてもらいたい」という執筆者に解説していただくことで、誌面を通じた双方向性と学びの楽しさを感じていただければ幸いである。

執筆者は、読者からの推薦に加え、JSAWIなどで活躍されている先生方や、各Questionに精通した専門家を中心に選定した。さらに、産婦人科医および病理医にもご参加いただき、3科が連携するJSAWIの雰囲気を誌面上に再現することを試みた。産婦人科領域の画像診断は、初学者や他領域を専門とする医師にとって敷居が高く感じられることも少なくないが、本特集を通じて、そのハードルを少しでも下げることができればと考えている。

本特集はビギナー向けを意識した構成であるが、各分野の第一線で活躍されている先生方にご執筆いただいております。基礎的内容に加えて最新の知見も盛り込まれている。いわば温故知新の観点から、初学者のみならず中級者やエキスパートにとっても、知識の整理・アップデートに資する内容となっている。自らこのように申し上げるのは恐縮であるが、産婦人科領域の画像診断に携わる際、一度は手に取っていただきたい1冊になったのではないかと考えている。

最後に、ご多忙の中、本特集の趣旨にご賛同、ご執筆くださった諸先生方、GOING-RSの研究仲間、ならびに将来を担う若手の先生方に深く感謝申し上げます。また、Questionをお寄せいただいた読者の皆様にも厚く御礼申し上げます。本特集が、産婦人科領域の画像診断に関心をもつ放射線科医の裾野を広げ、日常診療の一助となれば幸いである。

* 信州大学医学部附属病院放射線部
Ayumi Ohya Radiology Division, Shinshu University Hospital